

調査研究に関する中間報告書

調 査 研 究 課 題	火山活動の酸性雨調査に及ぼす影響の解析
調 査 研 究 の 目 的	<p>近年、九州内において桜島等の火山活動が活発化しており、火山ガスによる大気環境への影響も懸念されている。</p> <p>また、平成 14 年度から実施している「九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究」で、九州西部及び南部の非海塩性 SO_4^{2-} 濃度への火山の影響を報告した。</p> <p>本研究は、平成 3 年度から継続して実施している酸性雨調査結果を解析し、火山活動の影響について明らかにすることを目的とする。</p>
調査研究の進捗状況 （これまでの成果や問題点等を含む。）	<p>平成 21 年度から 29 年度までの、気象庁が公表する火山の状況に関する解説情報から抽出した火山活動情報及び酸性雨データを解析した。</p> <p>【火山活動情報】</p> <p>桜島について、平成 21 年度から平成 29 年度までの火山性地震、火山性微動及び噴火の発生回数を整理すると、平成 28 年度の発生回数が他の年より少なく、火山活動が落ち着いた年であることがわかった。</p> <p>その他の調査対象とした火山（霧島山、阿蘇山）については、桜島と比較して火山活動は落ち着いており、気象庁の公表する情報が不定期のため経年の変遷を見ることはできなかった。</p> <p>【酸性雨データ】</p> <p>pH および EC（電気伝導度）のデータについては、その経年変化を確認した。各イオン成分については、イオン濃度と降水量の乗算から、雨水を媒体として降り注いだ量（沈着量）の経年変化を確認した。</p> <p>【考察】</p> <p>pH および EC の変動には火山活動の寄与が示唆された。nss-SO_4^{2-} 沈着量の変動については、火山以外の影響が大きいと示唆されるが、nss-Cl-沈着量はより火山の影響を受けやすいことがわかった。</p> <p>令和元年度は、桜島以外の火山活動情報および F-沈着量を抽出し、火山活動の影響を解析していく。</p>
備 考	1) 九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究第 I 期報告書（平成 21 年） 2) 九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究第 II 期報告書（平成 23 年） 3) 九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究第 III 期報告書（平成 25 年） 4) 九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究第 IV 期報告書（平成 28 年）